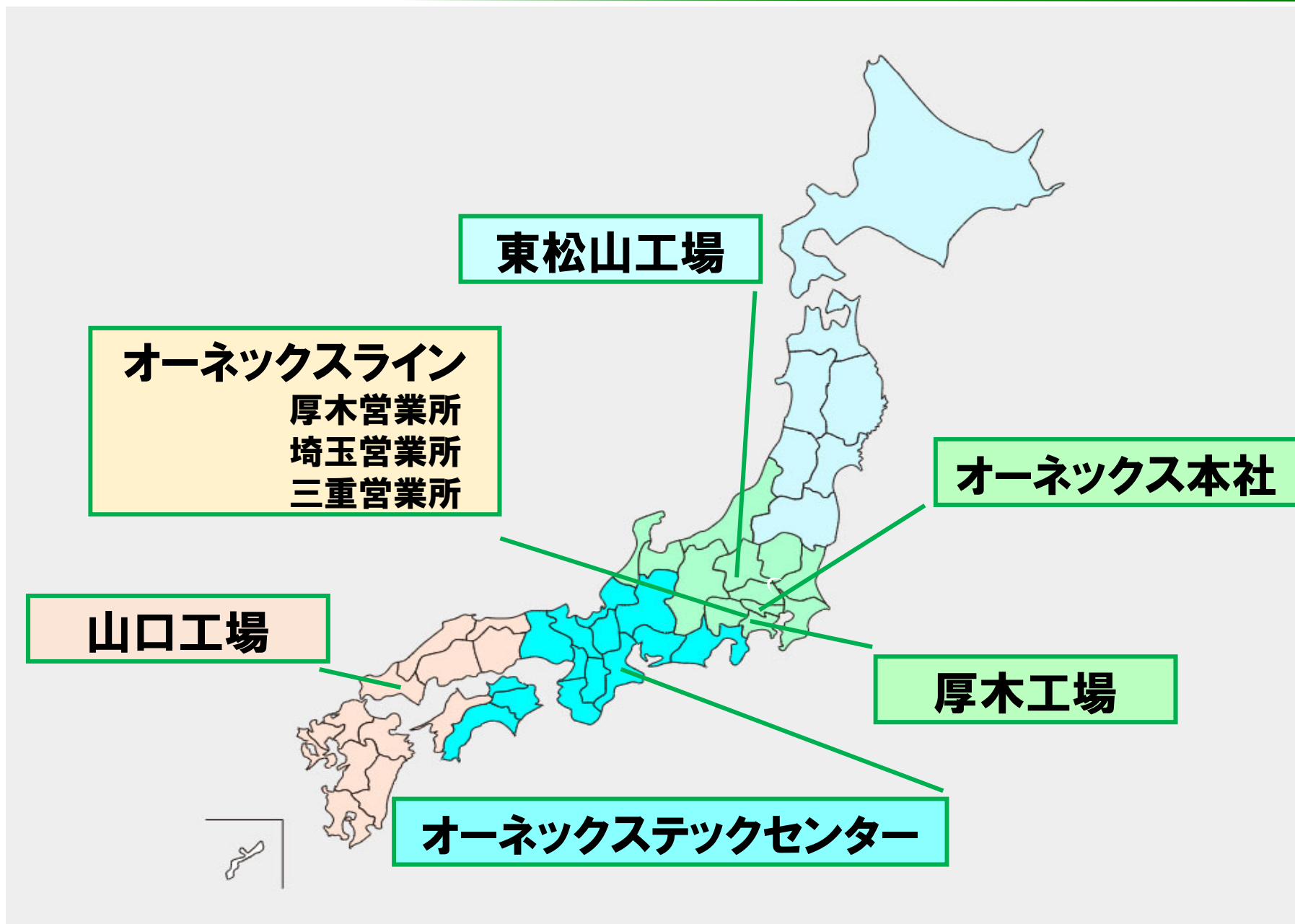


2023年6月期 決算説明資料

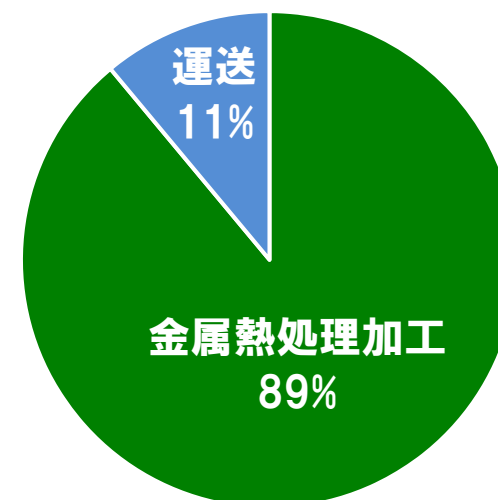
- 1. 当社のご紹介**
- 2. 2023年6月期決算概要**
- 3. 2024年6月期通期業績見通し**
- 4. 今後の展望**

1. 当社のご紹介



金属熱処理加工事業と運送事業の両輪で事業を展開

セグメント	事業内容
金属熱処理加工 (株)オーネックス (株)オーネックステックセンター	浸炭焼入 ガス軟窒化 高周波熱焼入 真空浸炭 その他
運送 (株)オーネックスライン	一般貨物運送業 その他



連結売上高5,365百万円
(2023年6月期)

2. 2023年6月期 決算概要

金属熱処理加工事業

- ・産業工作機械受注が堅調
- ・売上高は増収となったものの原材料費高騰により営業利益は減益
- ・持分法適用関連会社の再評価による投資利益の計上により経常利益は増益
- ・繰延税金資産の計上等により純利益は増益

運送事業

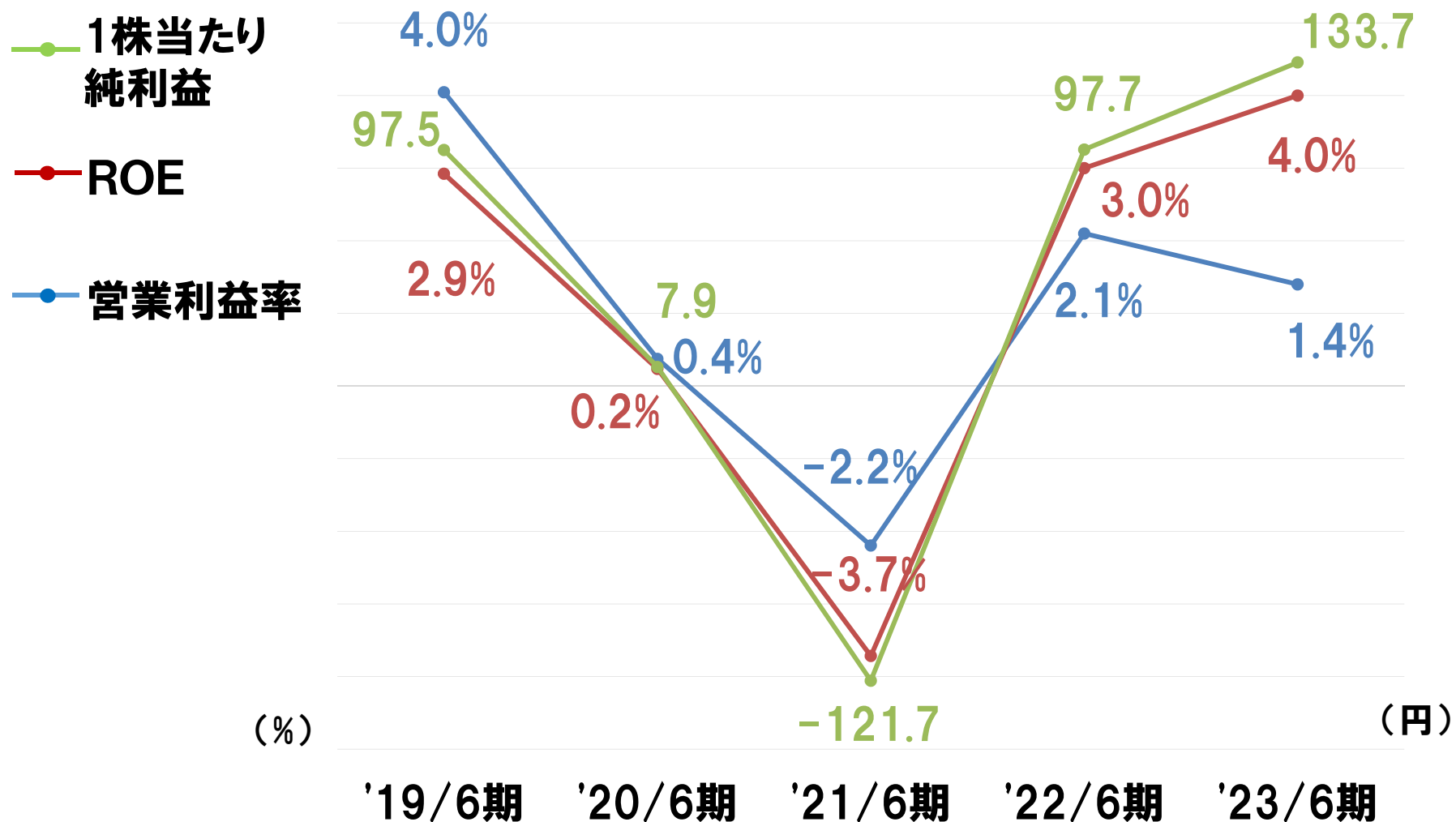
- ・一般貨物運送の持ち直しにより売上が増加

営業利益は減益ながら経常利益等では増益を達成

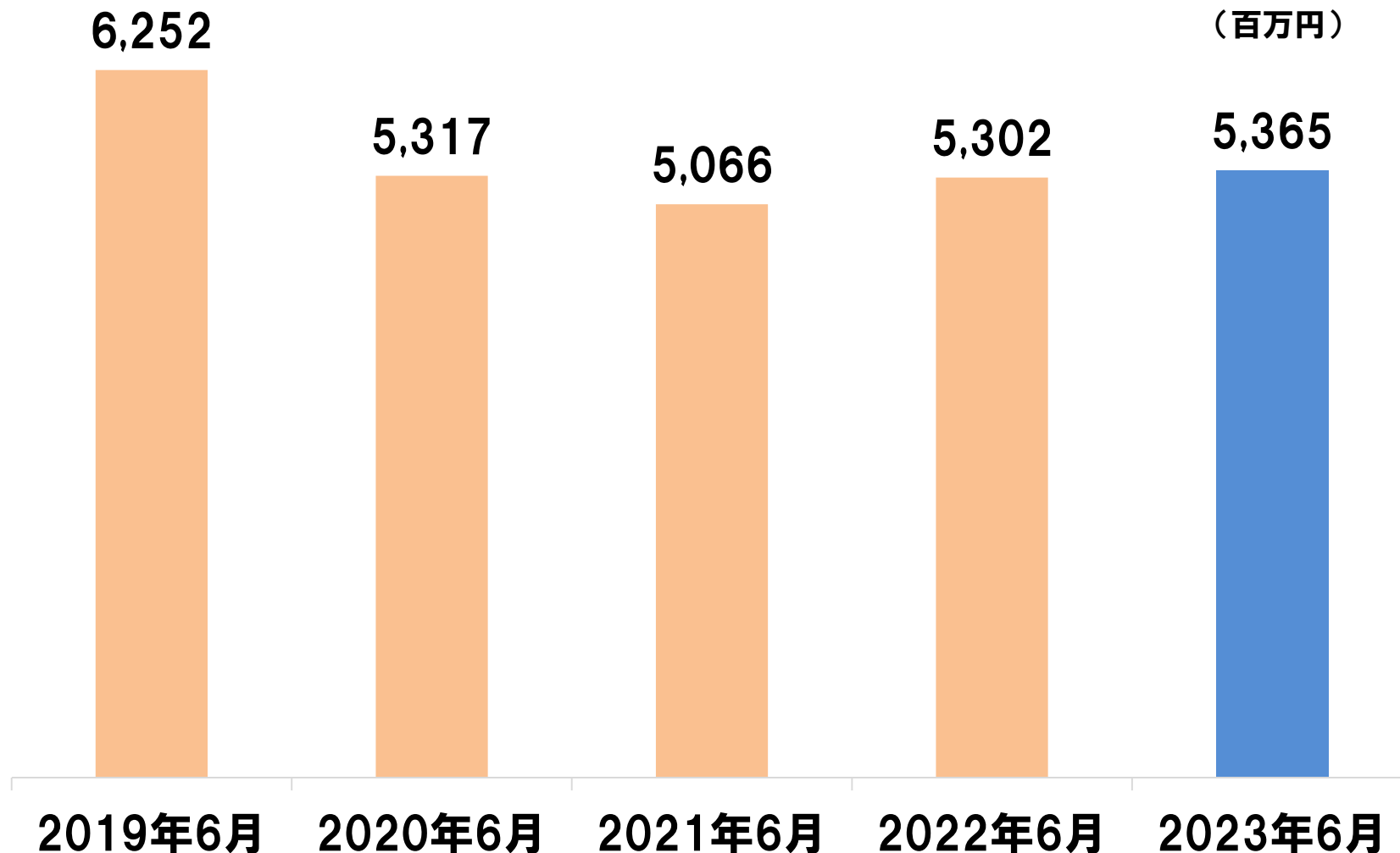
(百万円)

	2022年 6月期	2023年 6月期	増減	増減率	説明
売上高	5,302	5,365	62	1.2%	産業工作機械が堅調 単価アップによる値上げ
売上総利益	1,085	1,109	24	2.3%	-
営業損益	113	74	△ 38	△ 33.8%	2022年6月期 退職給付費用割引率変更
経常損益	125	194	68	54.4%	持分法による投資利益
純利益	161	221	59	36.9%	繰延税金資産計上
1株当たり 当期純利益(円)	97.71	133.72	36.01	-	-
自己資本 当期純利益率(%)	3.0%	3.9%	0.9%	-	-

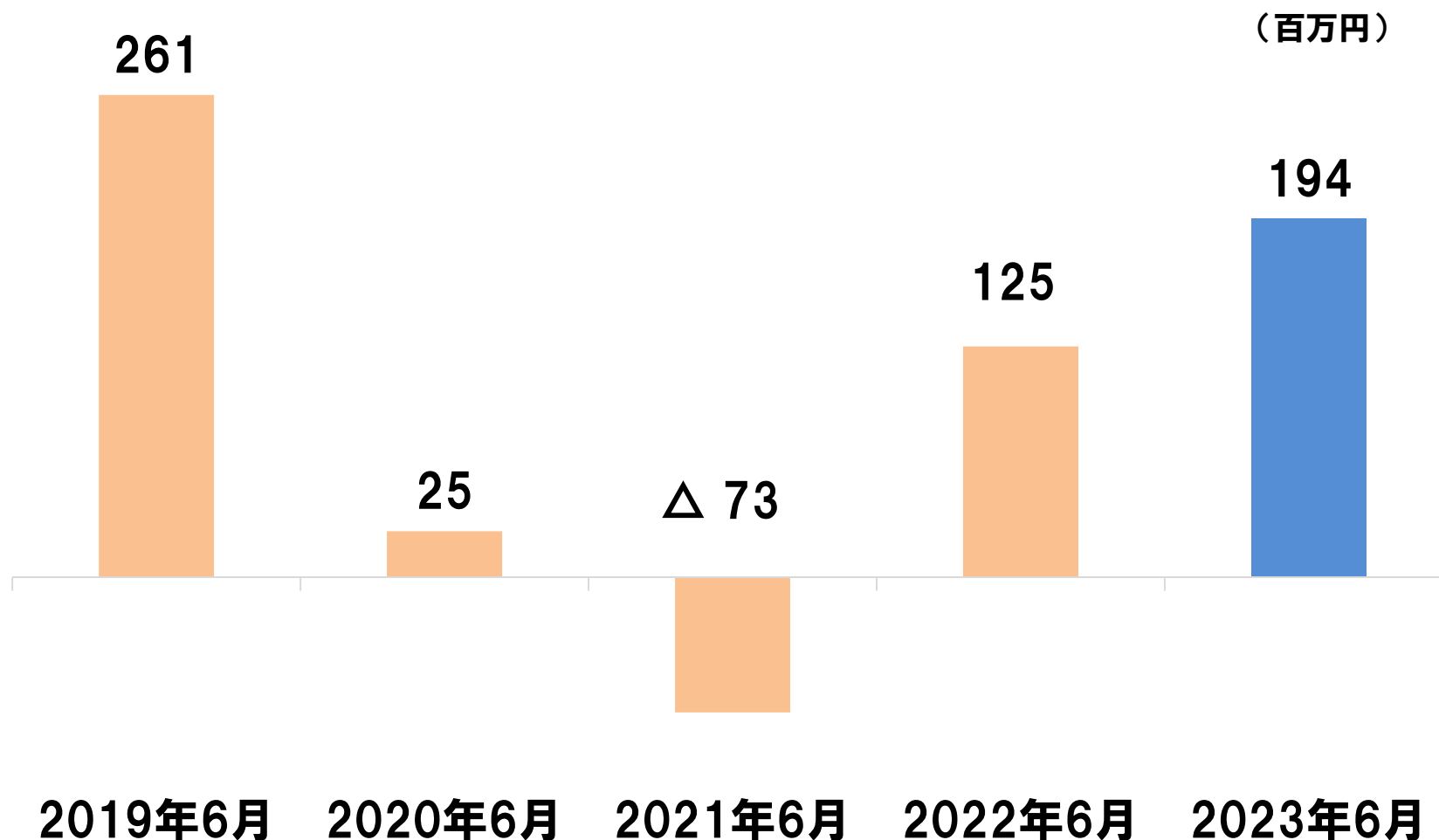
純利益の増益により、ROE、一株当たり純利益ともに増加



コロナ拡大により売上減少したものの徐々に回復



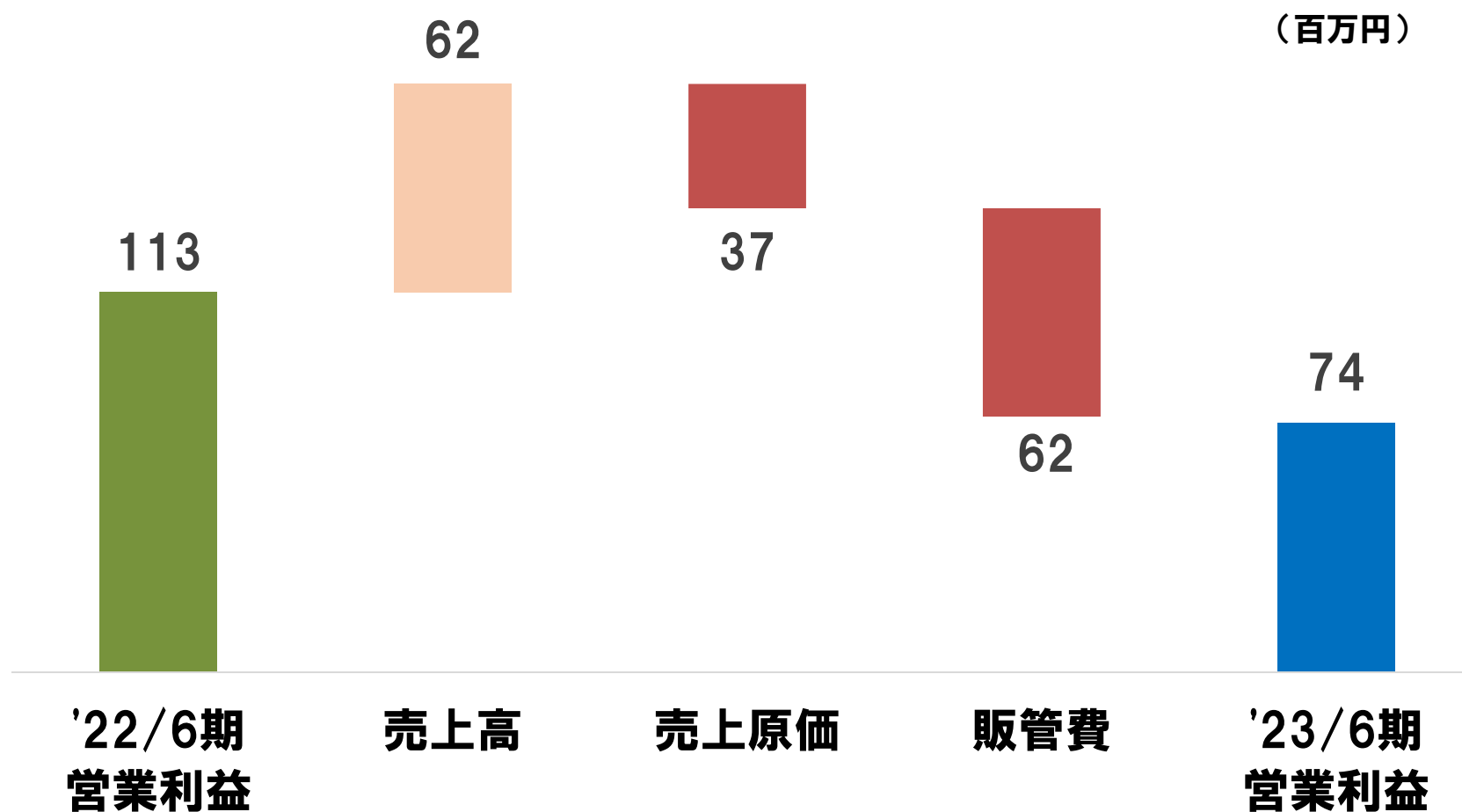
持分法による投資利益の計上により増益



連結営業利益の主な増減要因



売上は増加したものの、エネルギーコストや販管費の増加により営業利益は74百万円となった



セグメント別業績



(百万円)

売上高	2022年 6月期	2023年 6月期	増減	増減率
金属熱処理加工	4,747	4,771	24	0.5%
運送	555	593	37	6.8%

(百万円)

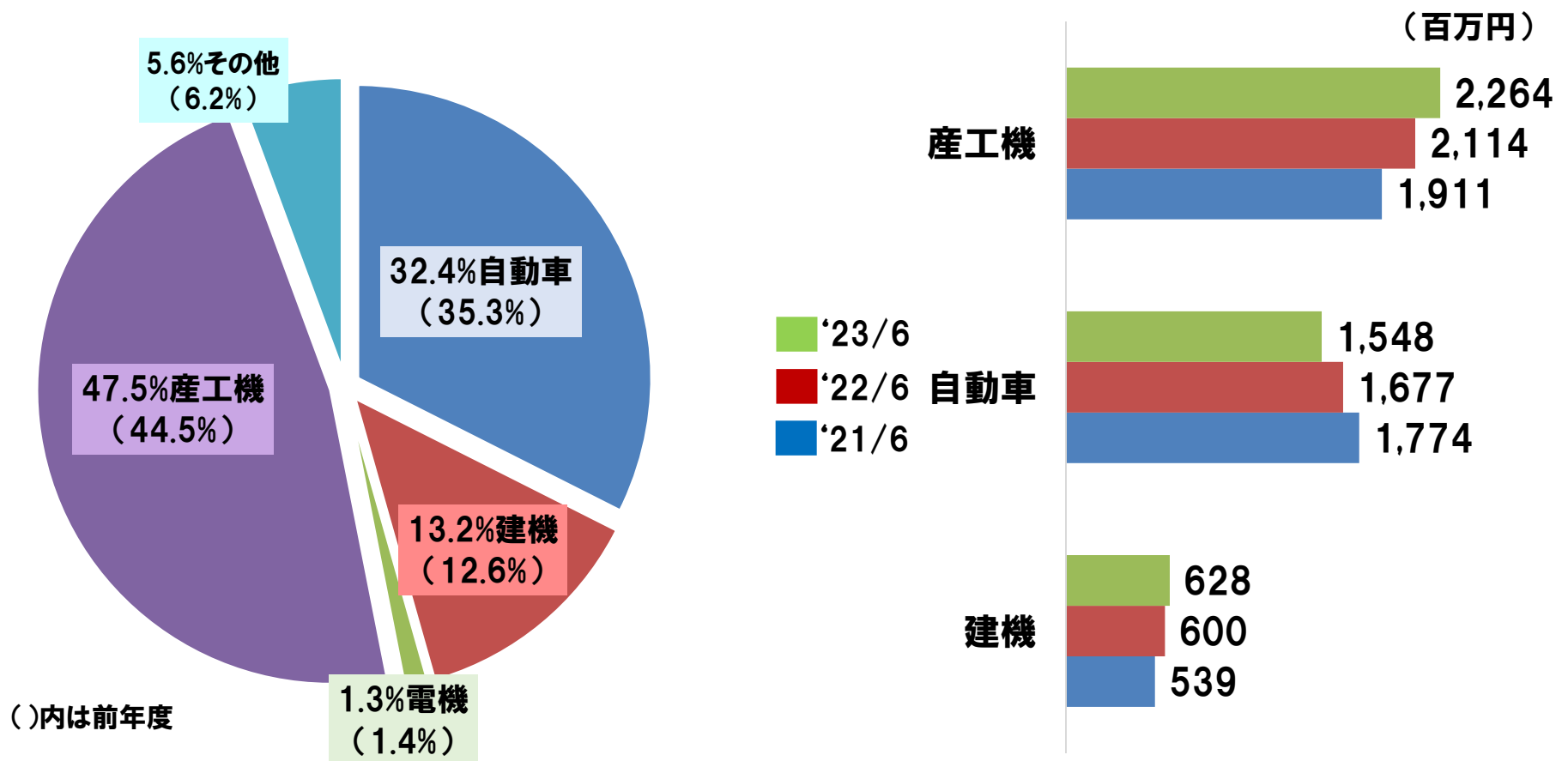
セグメント利益	2022年 6月期	2023年 6月期	増減	増減率
金属熱処理加工	68	29	△ 39	△ 57.3%
運送	25	26	0	3.4%

業種別シェア及び売上高(ONEX及びOTC)



自動車部品関連は減少したものの、産業工作機械、建設機械関連の増加や単価アップにより売上高拡大

2023年6月期

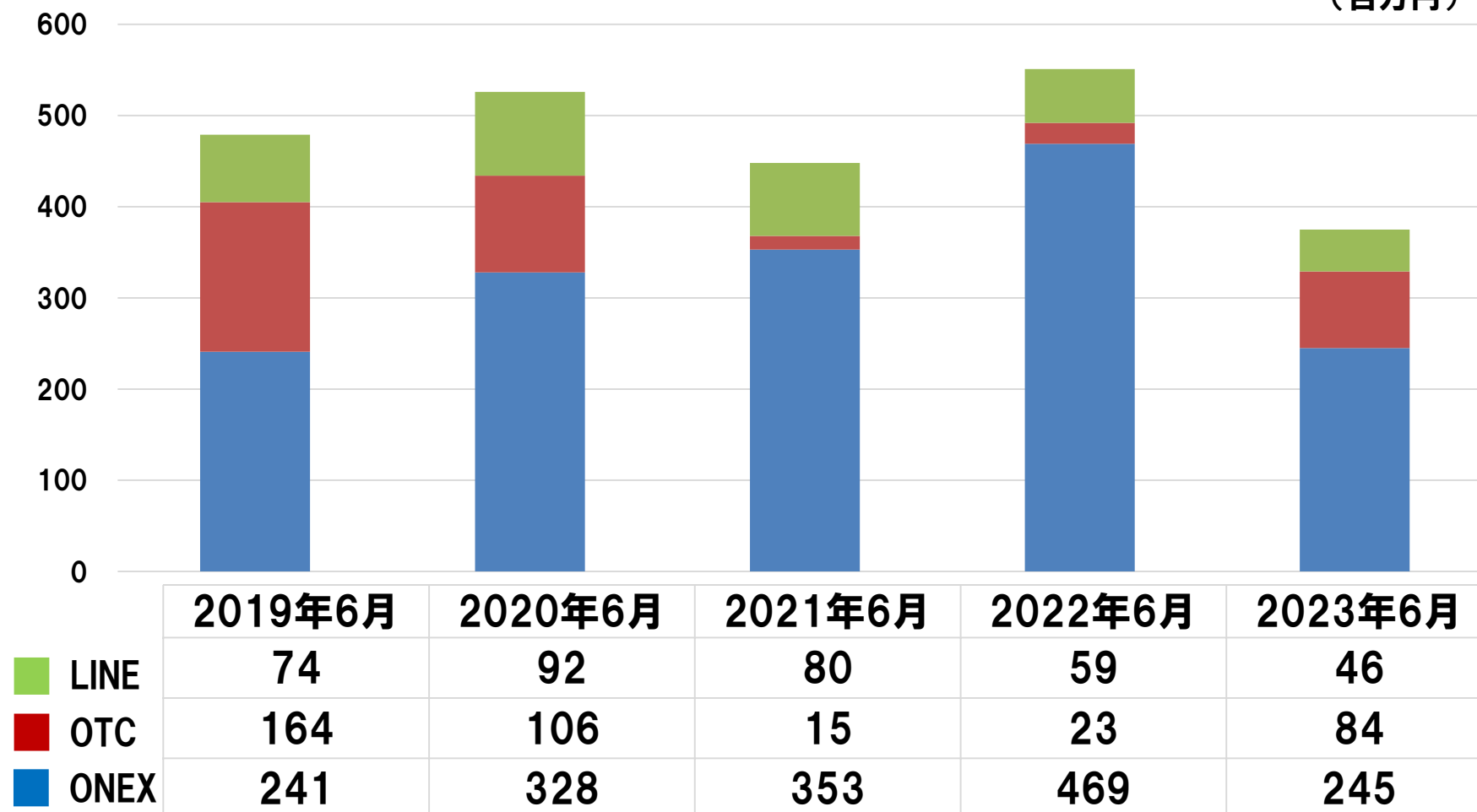


設備投資(連結)の状況



2023年6月期はOTCにて焼入炉を導入 (取引先量産対応)

(百万円)



連結キャッシュフローの状況

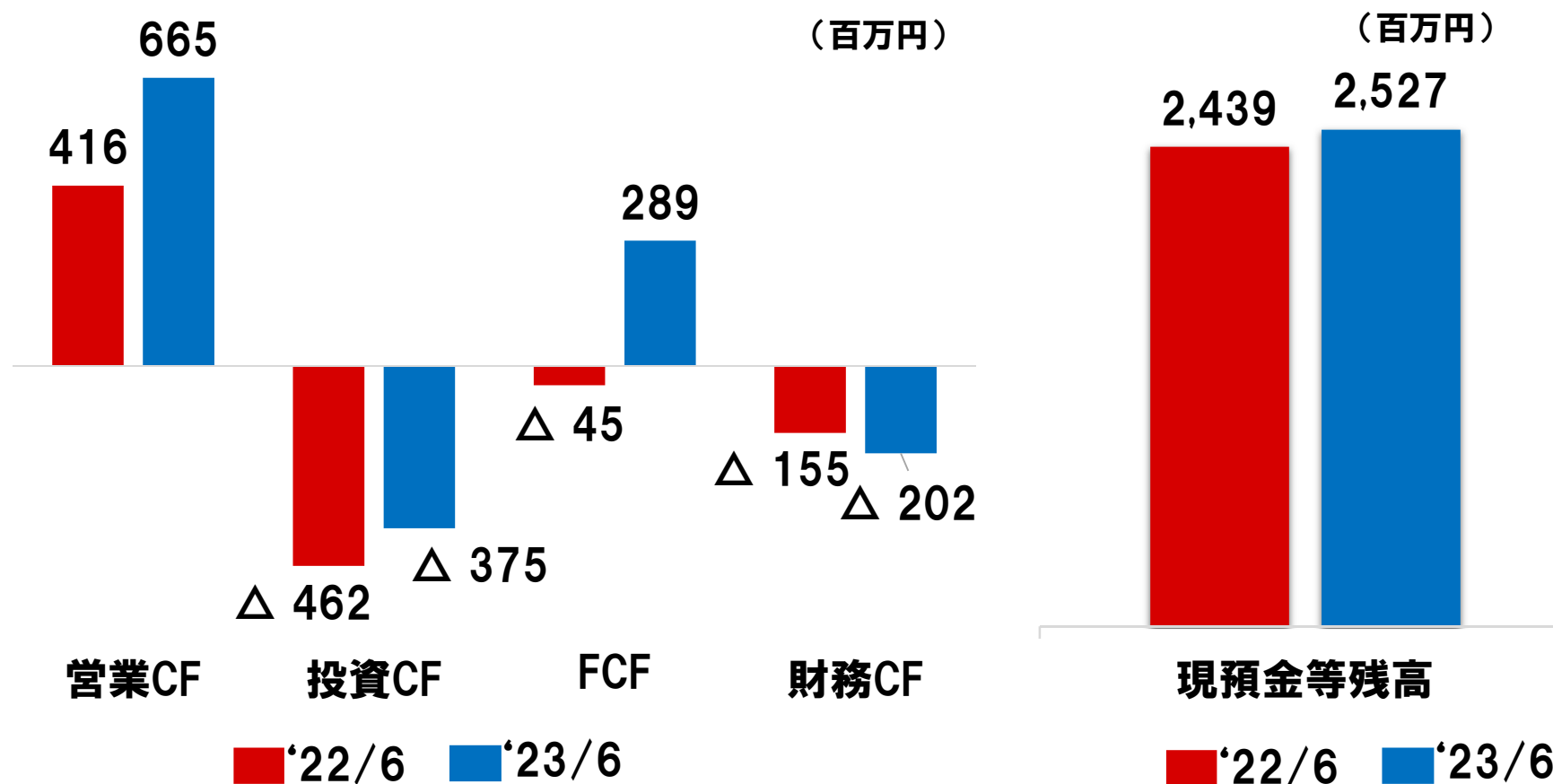


営業CF:退職給付に係る負債の減少の剥落

投資CF:有形固定資産の取得

財務CF:借入金の返済等により減少

現預金等残高は
87百万円の増加



連結貸借対照表



	2022年 6月期	2023年 6月期	増減	主な増減
流動資産	4,320	4,376	55	現金及び預金87
固定資産	5,465	5,558	93	有形固定資産△161 投資その他の資産262
資産合計	9,785	9,935	149	
流動負債	1,728	1,899	171	未払金83 未払法人税等63
固定負債	2,621	2,382	△ 239	長期借入金△153 その他△66
負債合計	4,350	4,281	△ 68	
純資産	5,435	5,653	217	利益剰余金188
負債純資産合計	9,785	9,935	149	
自己資本比率	55.5%	56.9%	1.4%	

3. 2024年6月期 通期業績見通し

2024年6月期業績予想(連結)



引き続き、単価アップ交渉を進め売上増加を図り各工場にて合理化を推進し増収・増益を見込む

	2023年 6月期	2024年 6月期 (予想)	増減	増減率
売上高	5,365	5,582	217	4.1%
営業利益	74	171	97	129.7%
経常利益	194	175	△ 18	△ 9.7%
純利益	221	406	184	83.5%
※ 1株当たり 当期純利益(円)	133.72	245.37	111.65	-

※純利益の増益予想は、受取保険金が特別利益として計上される見込みのため

配当方針と配当予想



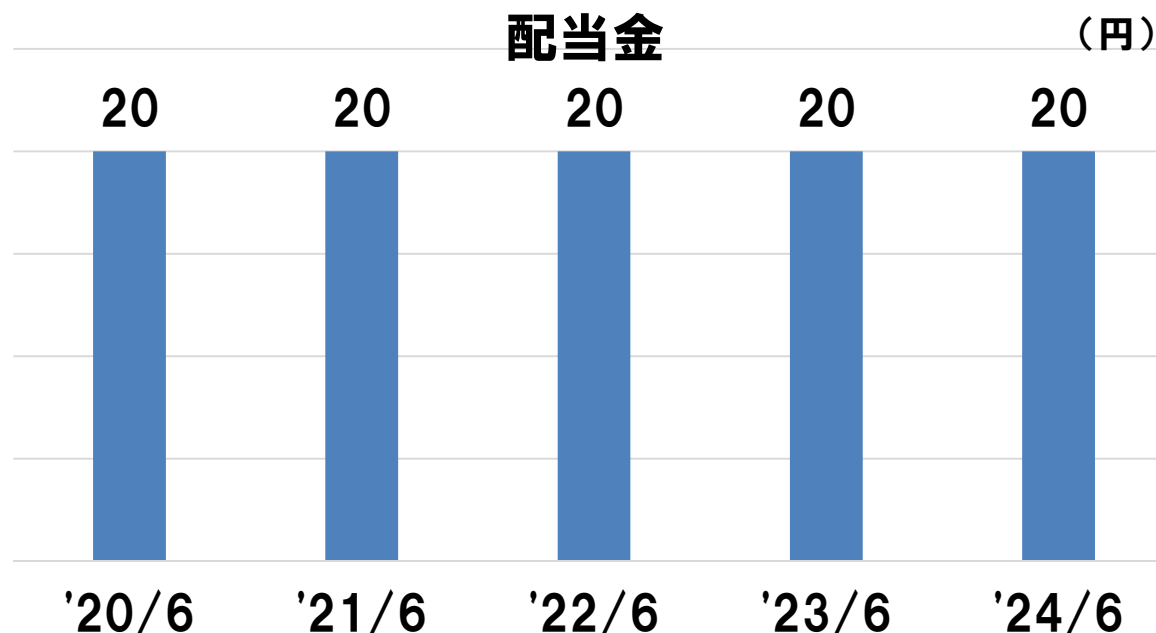
配当方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の1つとして位置づけ

企業体質の強化と将来の事業展開に備えた内部留保の充実を勘案し、安定的に配当を行うことを基本方針とする

配当予想(2024年6月期)

一株当たり20円 ~ 安定配当へのコミットメント



4. 今後の展望

これまでの経営戦略概要



<p>1. 外部コンサル導入による生産管理システムの見直し(2013) ⇒OJTソリューションズによるコンサル(厚木工場で6ヶ月間)</p>
<p>2. 厚木工場と東松山工場の一体化運営(2014) ⇒圏央道開通により、厚木ー東松山間が車で1時間(約75km)</p>
<p>3. オーネックステックセンター(OTC)の設立(2014) ⇒三重県亀山市子会社設立、目的:市場開拓・BCP対策</p>
<p>4. 本社移転(2017) ⇒厚木市から町田市へ移転し知名度向上及び採用活動を有利に</p>
<p>5. 長野工場閉鎖(2021) ⇒新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う業績の急激な悪化</p>
<p>6. 自家消費型太陽光発電システム導入(2021・2022) ⇒オーネックステックセンター(OTC)及び山口工場へ設置</p>
<p>7. 山口工場の生産集約(2022) ⇒生産効率の向上</p>
<p>8. 多能工化と仕事の定量化(2023) ⇒業務処理向上と一人一人の貢献度の見える化</p>

◇世界的なコロナ感染は収束へ向かい景気は緩やかに拡大
⇒半導体の生産が回復し、自動車部品等の受注増を予測

◇ロシア・ウクライナ情勢によるエネルギー・原材料価格等の高騰
⇒電力費の高騰

◇労働人口(人材・人手不足)の減少
⇒多能工化・定量化で生産体制を効率化・設備等の自動化

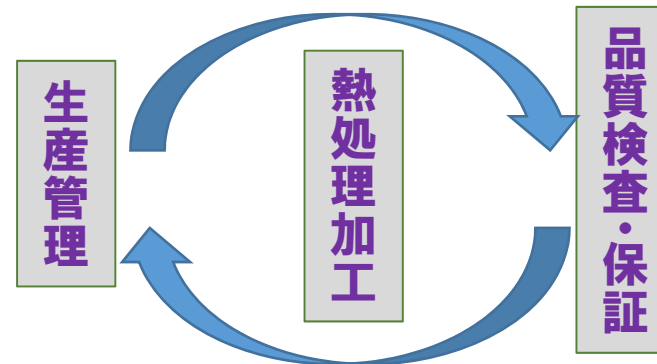
◇カーボンニュートラルな社会への動き、自動車EV化
⇒EV化による部品数減により、メーカーの外製需要を取り込む

◇成長戦略と自然災害への対応
⇒OTCは、ONEXの基幹工場として更に成長、またBCP対策の要

労働人口減少への対応

多能工化・定量化プロジェクトを発足(本年3月)

◇人材教育を継続し**多能工化**を推進



◇**熱処理等の設備の自動化**を推進

熱処理炉自動化ライン(OTC)



自動防炭塗布装置(OTC)



経済の回復に備え既存事業の合理化・効率化の追求

多能工化・**定量化**プロジェクトを発足(本年3月)

◇従業員作業量を**定量化**し、業績への貢献度を明確化

◇**可視化**により、「ムリ」「ムダ」「ムラ」を発見し効率化

経済の回復に備え既存事業の合理化・効率化の追求

- ◇米中貿易摩擦＋中国コロナ禍のロックダウン等
⇒国内回帰／国産回帰
- ◇設備の老朽化、人材確保困難、教育コスト大
⇒内製熱処理を外注



メーカーの内製熱処理の外製化需要の取り込み

カーボンニュートラルな社会への対応

各工場別CO2排出量(ton)

工場 \ 年度	2021年度	2022年度
厚 木	7,257	6,535
東松山	7,471	6,808
山 口	2,909	2,872
OTC	3,834	3,419
合 計	21,471	19,634

カーボンニュートラルな社会への対応

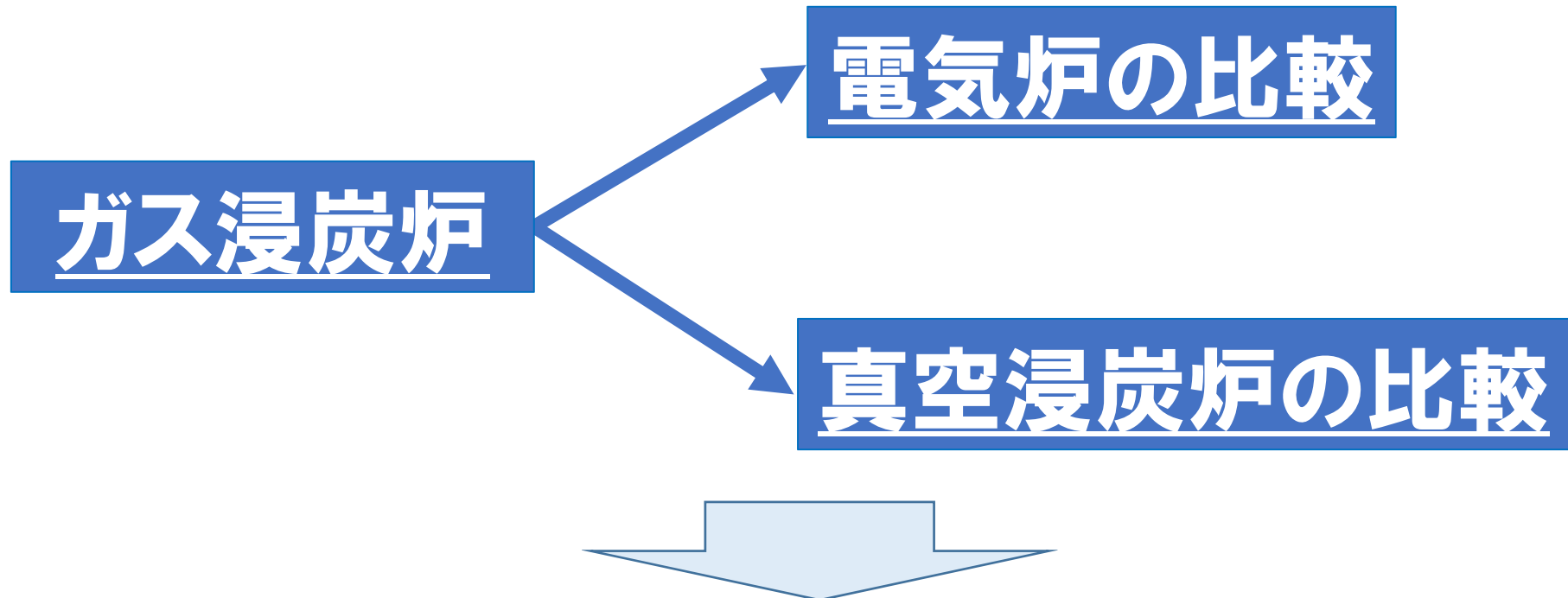
設置済みの自家消費型太陽光発電システム

工場		CO2削減量	年間メリット
オーネックス テックセンター		CO2削減 年間約 106t	1,010 千円/年
山口工場		CO2削減 年間約 60t	266 千円/年



次に、厚木工場・東松山工場への導入を予定

カーボンニュートラルな社会への対応



技術動向を考慮し、適切な種別転換を見極める

**本資料の業績予想並びに将来予測は、現時点
で入手可能な情報に基づき当社が判断したもので
あり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。**

**そのため、様々な要因の変化により、実際の業績
は記述されている将来見通しとは異なる結果となる
可能性があることを御承知おき下さい。**